

正法寺蔵『夏冬首座記帳』

仏教文化研究所客員研究員 尾崎 正善

はじめに

岩手正法寺は、峨山禪師二十五哲の筆頭に記される無底良韶（一三三三〜六二）を開祖とし、室町期から戦国期にかけては「奥羽二州の僧録寺院」・「出世道場」として発展した。しかし、江戸期は独立本山としての格を失い、また、總持寺の筆頭末寺となり緋衣着用の資格も失ったとされる。このように、初期曹洞宗教団が東北地方で展開してゆく上での拠点寺院であり、また江戸期には紆余曲折を見る正法寺には、その長い歴史を記録した多くの史料が残されている。その中の一つが、今回紹介する『夏冬首座記帳』である。

本史料は、正法寺において明和二年（一七六五）から明治四年（一八七二）まで、約百年間にわたり、首座を勤めた修行僧の名簿であり、その数は、二二三名に上る。また、合わせてこのような名簿が作成される契機ともいえる、常住会地認可の過程も記録されている。

本史料紹介を通して、常住会地認可までの経緯と、首座を勤めた修行僧がどのような僧侶であったか確認してみたい。そこには、正法寺の江戸期の様相、位置付け、さらには首座の人材確保という、当時の実状を確認することができる。

一、正法寺常居会地認可の経緯

『夏冬首座記帳』の冒頭には、正法寺が常居会地に認可されるまでの経緯について記録されている。

まず、三法幢地に関しては、岡田宜法『洞門政要』「第三篇寺格・第一章宗門寺格・第一節三法幢地」において、江戸期の実状が詳細に述べられている。しかし、正法寺の箇所を確認しても、法幢許可の年月日は未詳とされる。(同書、六一六頁)

『奥州曹洞の古刹 大梅拈華山 円通正法寺』(平成二十一年)の年譜には、随意会地・常恒会地認可が何時行われたか明記される。そこには、次のように記される。

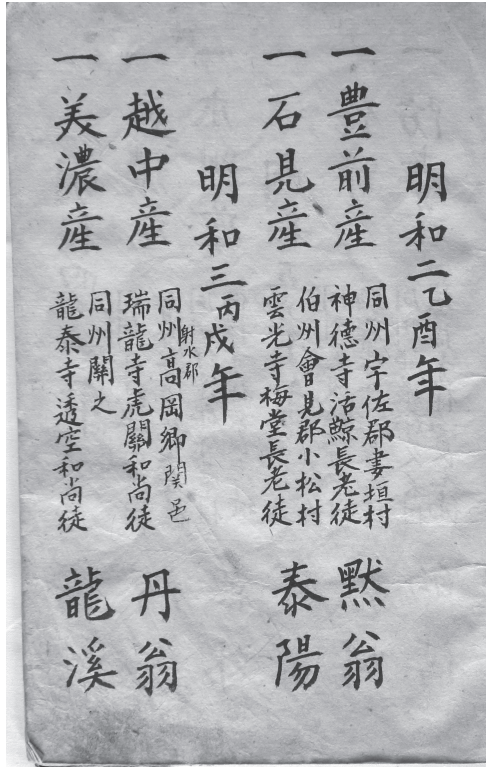
元禄一五年(一七〇二) 八月三日、定山和尚代、「貧地に付、随意会地」となる。(四五頁)

明和 元年(一七六四) 正月二十四日、願いにより、六二年の歳月を経て三十五世大東文雅和尚代、「常恒会地」の免贖を受ける。(四九頁)

今回確認された『夏冬首座記帳』の記録は、以上の内容を再確認するものである。と同時に詳しい手続きの経緯、江戸表(寺社奉行)、関三刹、永平寺・總持寺、さらに仙台四ヶ寺への挨拶・交渉が時系列で記録されている。

このような記録は、常恒会地認可というだけでなく、当時の宗門行政の一側面を明らかにすることができる。

ちなみに、冒頭にも述べたように正法寺は、東北地方の中心的寺院であるので多くの修行僧を有していたと想像していたが、実際には「僧録・出世道場」としての機能が主で、弟子の育成に重きを置いていなかったのではなからうか。それが結果的に、江戸初期においては、三法幢地に認可されていなかった理由と想像される。⁽¹⁾



二、首座の傾向・特色について

次に正法寺の首座名簿を紹介するにあたって、その内容、首座の傾向や特色を論じて見たい。なお、アラビア数字は、首座の該当番号である。

(一) 記録内容

記録の形式は、以下の写真に示すとおりである。

先ず、年号干支が一行記され、次に、夏・冬の順番で首座の情報記録される。また、年号の箇所は、時代が下ると「夏・冬」と二回記される例や、その年の正法寺における入院や客殿の造営、また改元についてなどが記される場合も認められる。

記載内容は、出身地・師僧寺院所在地・師僧寺・師僧名、そして最後に首座名が記録される。この形式は百年間同一である。これにより、正法寺結制において首座を務めた修行僧の実態を詳細に知ることができる。

ただし、師僧名や寺院名が記録されていない例もある。

また、本資料を読み解く前提として、この『首座記帳』に記録される「首座」とは、いかなる修行僧なのかという問題がある。「首座」を務める修行僧としてまず想定されるのが、岩手正法寺において出家し、本叢林で修行を積み重ね、結果首座を務めた場合である。そのような時には、出身地は記されても、師僧寺院名は不要であろう。

次に想定されるのは、他所で出家・修行し、長年の遍参の末に正法寺に至り、首座の位に就いた修行僧という場合である。そのような時には、当然出身地・師僧寺院名は必要となろう。

最後に想定されるのは、江湖会を開くために、首座を要請されて、各地から集められた、もしくは派遣された修行僧の可能性である。特定の寺院から集中的に、さらに短期間に複数回認められるのはこのためではなからうか。

つまり、本書の記録から想定されるのは、最後の形式で、江戸後期における江湖会は、現在のように外部から首座を招聘していたという可能性が高いと考えられる。そうでなければ、わざわざ師僧寺院所在地・師僧寺・師僧名を記録する必要はないのではなからうか。結論を急ぐことはできないが、そうした可能性を想定し、他の資料との比較を今後の課題としたい。

(二) 寺院国別

首座の出身地及び師僧寺の国別の傾向を見てみよう。なお、出身地と出身寺院（師僧寺）が同一の場合が多い。しかし、最初に記される出身地は三河や尾張であるが、師僧寺が武州江戸、武州足立郡等の例も確認できる。寺院間の交流も考慮し、出身地ではなく師僧寺の地名別とした。

以下、その一覧である。（国名表記は、統一を図った）

一人―安房・伊豆・上総・紀伊・上野・下野・丹後・長門・肥後・備中・伯耆・山城・大和・若狭（十四ヶ国）

二人―出雲・石見・近江・加賀・駿河・摂津・但馬・肥前・松前（九ヶ国）

三人―吉岐・信濃・能登・越中（四ヶ国）

四人―甲斐・相模・周防・遠江（四ヶ国）

五人―伊勢・越後（二ヶ国）

六人―豊前

九人―出羽・武蔵（二ヶ国）

一人―美濃

三〇人―尾張

七八人―陸奥（以上、三千九ヶ国、二百十三人）

まず、陸奥の国が約三分の一を占め最多なのは、地元で距離が近いことから当然のことと思われる。細かくは閉伊郡・和賀郡・稗貫郡・岩手郡盛岡など現在の岩手県が主であるが、伊達郡（福島県）にまでいたる現在の東北地方の東半分全域に亘る。

近い地域としては、同じ東北の出羽の人数が意外と少ないと感じる。これは門派の違いによるもので有ろうか。

これに対して、尾張・美濃、そして伊勢・遠江という東海地域が多いのは意外であった。この地域だけで四分の一を占める。特に尾張は、三十人と突出している。

また、肥前・肥後・豊前などは回数は少ないが、九州地方からも正法寺に参学していた。確認できないのは、僅かに四国地方だけであり、首座の出身寺院が、全国に分布していたことが判明した。

(三) 時代ごとの変遷

次に、各地から集まった首座の傾向に時代ごとの変化が認められるか確認してみたい。

一七六五年から一八七一年までの百七年間、二百十三人なので、便宜的に、①一七六五年から八〇年までの十六年間・三十二人、②一七八一年から一八〇〇年までの二十年間・四十人、③一八〇一年から二〇年までの四十人、④一八二二年から四〇年までの四十人、⑤一八四一年から六〇年までの四十人、⑥一八六一年から七一年までの十一年間・二十一人、という六つの時代に区切ってその傾向を確認した。

①一七六五年～八〇年（十六年間・三十二人）

美濃・八人、武蔵・四人、甲斐・加賀・相模・遠江・二人

出雲・越後・越中・近江・上野・信濃・周防・但馬・丹後・伯耆・豊前・陸奥・一人

②一七八一年～一八〇〇年（二十年間・四十人）

豊前・五人、出羽・武蔵・四人、沓岐・陸奥・三人

伊勢・越後・甲斐・駿河・肥前・二人

安房・伊豆・尾張・上総・紀伊・相模・周防・摂津・但馬・長門・大和・一人

③一八〇一年～二〇年（二十年間・四十人）

尾張・陸奥・一二人

石見・遠江・能登・美濃・二人

出雲・越中・相模・信濃・下野・周防・備中・若狭・一人

④一八二二年～四〇年（二十年間・四十人）

陸奥・十八人、尾張・十人

伊勢・三人、出羽・二人

越後・越中・信濃・周防・能登・美濃・山城・一人

⑤一八四二年～六〇年（二十年間・四十人）

陸奥・三十人、尾張・六人

越後・摂津・出羽・武蔵・一人

⑥一八六一年～七一年（十一年間・二十一人）

陸奥・十四人

出羽・松前・二人

近江・尾張・肥後・一人

最初の①の時代では、陸奥は僅かに一人である。それが、時代ごとに②三人・③十二人・④十八人・⑤三十人、そして⑥十四人と確実に増えてゆく。こうした変化は、正法寺の置かれていた状況、当時の政治・経済状況、さらに宗門内で遠方より首座を招聘できなくなった可能性などが、想定される。

(四) 出身地と師僧寺地が異なる例

次に、修行僧自身の動向についての記録である。本資料においては、出身地がまず記されている。これは、自身の出自を明らかにするため、本貫を重視した結果であろうか。と同時に、修行した寺院が記されるが、それは必ずしも出身地ではない。数は多くないが、出身地と師僧寺地が異なる例を通して、当時の僧侶の動向を確認して見たい。

2	石見産	伯州会见郡小松村雲光寺梅堂長老徒
9	参河産	武州江戸深川越中嶋大原寺大休長老徒
18	尾張産	武州下足立郡伊興村薬師寺寛量長老徒
23	美濃産	武州下足立郡伊興村薬師寺寛量長老徒
90	越前産	遠州豊田郡牛飼村大福寺秀仙長老徒
108	尾州産	濃州池田郡脛永村法幢寺天柱長老徒
116	尾張産	濃州恵那郡正家村圓通寺瑞苗
123	羽州村山産	奥州東山黄海邑寶珠寺祖峰長老徒
124	三州産	南部稗貫郡大迫邑桂林寺全提長老徒
125	越後産	信州高井郡桜沢邑藤與寺良海長老徒
150	三州産	越後蒲原郡久保田村太總寺良碩長老徒

以上、十一例である。全体からみると五パーセントほどで、割合からすると少ないと思われる。首座のために遠く移動するという今回の名簿からみると、修行の初期の段階では、地元が良いということであろうか。

そうした中、石見から伯耆、尾張から美濃、奥羽から陸奥、越後から信濃は、隣の国であるが、尾張・美濃から武蔵、越前から遠江、三河から武蔵・南部・越後などの例は、当時の参学修行の一端を示しているといえよう。

(五) 首座の出身寺院

次に、複数回記される寺院との関係について見ておきたい。二百十三人の出身寺院を見ると、述べ百七十ヶ寺（不明一人）であり、二回以上の複数回名前が上がるのは、十八ヶ寺、六十人である。残りの百五十二ヶ寺は一人のみである。回数が多い順に見ると、以下の様になる。（一人のみの寺院は割愛）

尾張・知多郡大野	齊年寺	十一回
陸奥・南部稗貫郡大槌村	江岸寺	七回
陸奥・南部和賀郡立花村	正蔵寺	五回
陸奥・岩手郡盛岡	永祥院	四回
豊前・企救郡小倉城下	宗玄寺	四回
陸奥・南部領閉伊郡綾織邑	光明寺	三回
陸奥・南部閉伊郡津軽石村	瑞雲寺	三回
陸奥・南部花巻和賀郡太田村	昌歆寺	三回
松前・福山城	龍雲院	二回
陸奥・南部和賀郡皿木邑	永昌寺	二回
陸奥・南部閉伊郡橘野村	林宗寺	二回
陸奥・南部和賀郡黒沢尻	染黒寺	二回

陸奥・南部岩手郡盛岡城下	東顕寺	二回
武州・下足立郡伊興村	葉師寺	二回
駿河・駿東郡獅子浜村	楞嚴院	二回
尾張・知多郡河和邑	全忠寺	二回
尾張・知多郡寺本村	大祥院	二回
伊勢・一志郡大阿坂村	浄眼寺	二回

最も多いのが、尾張・齊年寺の十一回で、他にぬきんでている。その理由は、いかなるものであろうか。

その時期を見ると、79逸鱗（二八〇四年）、83雷喚（二八〇六年）、86篤宗（二八〇七年）、107寛陵（二八一八年）、110瑞峰（一八一九年）、112越宗（二八二〇年）、117寂宥（二八二三）、126黙底（二八二七年）、139東中（二八三四年）、141全用（二八三五年）、188驢年（二八五八）となる。188驢年を除いた十一人は、時期が集中している事がわかる。特に107寛陵・110瑞峰・112越宗は、三年連続であり、他も連続か、数年おきである。

さらに師僧は、黙定が七回と突出し、次いで歎兮が二回となり、両者には大きな偏りがある。また126黙底は、188驢年の師である。つまり、黙定の弟子の黙底は、正法寺で首座を勤めた後、齊年寺の住持になり、その弟子の驢年が正法寺の首座を勤めている。

同じような例が、正蔵寺にも確認できる。五人の内、崑山が師僧を勤めるのは、128禪戒、135泰嶺、158東玄の三回。そして、128禪戒が、172玉峰の師である。

こうした相互間系を見ると、師の個人的な繋がりが存在したのではないかと想像される。つまり、正法寺を中心とした、陸奥の寺院間のネットワークの中で、首座が招聘されたのではなく、何らかの個人的な結びつきの中から選ば

れたと想定されるのである。

一方で、三回までの寺院は、陸奥・江岸寺の七回、陸奥・正蔵寺の五回、陸奥・永祥院の四回、陸奥・光明寺・瑞雲寺・昌歎寺の三回とやはり陸奥が多いのは、地域的な繋がりによるものであろう。その中であつて、豊前・宗玄寺の四回は注目される。

(六) 末寺・孫末寺、無底派との関係

先に、首座が招聘された背景に、個人的な繋がりがあるのではないかと述べたが、次ぎに正法寺を中心とした、陸奥の寺院間のネットワーク、末寺・孫末寺院、無底派の関係を確認してみたい。

『延享度曹洞宗寺院本末牒』（三一―二頁）を参照し、正法寺の末寺・孫末寺院数を調べると、末寺は八十ヶ寺、孫末は八十八ヶ寺に上る。さらにその関係末寺は七十五ヶ寺も存する。末寺・孫末寺院からの首座は、末寺 十二人（九ヶ寺）、孫末寺十一人（六ヶ寺）だけであり、他の関係末寺からの首座は確認できない。合計すると二十三人であり、全体の一割といえる。この人数は、かなり少ない印象を持つ。

具体的に末寺からの首座は、以下の十二人である。

55 知音・蔵堅寺、85 素法・龍雲寺、89 海運・万松寺、98 徳岩・菅生院、114 禅山・129 金牛・154 良宗・昌歎寺、118 白禅・119 紹栄・東顕寺、120 法泉・正重寺、205 柏真・高金寺、213 良順・龍徳寺

注目すべきは、三人の首座を出した昌歎寺と、三人（118 白禅・119 紹栄・120 法泉）続けて末寺から首座が出ている時期が存することである。昌歎寺の師僧は、全て探中であり、彼が意図して首座を提供した可能性がある。また、三人続けてというのは、この時期だけのもので、百年を通して唯一確認できる事例である。

さらに、孫末寺院からの首座は、以下の十一人である。

81 仙山・松山寺（大慈寺末）、140 圓中・泉徳寺（瑞徳寺末）、126 禅戒・135 泰嶺・158 東玄・172 玉峰・182 玄志・正蔵寺（瑞興寺末）、161 圓珠・206 祖恩・永昌寺（瑞興寺末）、178 玉祥・円通寺（瑞興寺末）、186 恵晃・正傳寺（東顕寺末）
注目は、正蔵寺からの五人と、さらにその関係する瑞興寺末を加えると合計八人となり、その大半を占める点である。これは、孫末寺院だからという理由よりも、先に述べたように師僧の個人的な繋がりによって抱えるものであるうか。繰り返しになるが、正法寺系で複数名が上がる寺院は、正蔵寺の五回、昌歆寺の三回、永昌寺・東顕寺の二回だけであり、偏りがあるといえる。

それに対して知多郡齊年寺は、乾坤院の系統で太源派である。さらに、七回の稗貫郡江岸寺は、盛岡報恩寺末で通幻派、四回の盛岡永祥院も、三戸郡法光寺末と同じく通幻派である。豊前宗玄寺は、大中寺末で快庵派とされる。

閉伊郡光明寺は大興寺末、閉伊郡林宗寺は曹源寺末、和賀郡染黒寺は正覚寺末で、この三ヶ寺は共に太源派である。閉伊郡瑞雲寺は永徳寺末で道叟派、松前龍雲院のみ法幢寺末で無底派である。

このように見ると、正法寺に近いはずの無底派・道叟派関係の首座は、非常に少ないと感じる。

(七) 嗣法と記載される例

師僧との関係を「長老嗣」と記す者が、以下の七人確認される。

43 祖巖・甲斐産・本領城下栽松院連芳長老嗣

53 東秀・本州南部産・本領東山鳥海村西光寺楚天長老嗣

77 禅鏡・越中産・本領伊沢郡中畑村大儀寺正道長老嗣

81 仙山・本州南部産・本領東山濱横沢村松山寺毫天長老嗣

85 素法・本州南部産・本領東山折壁村龍雲寺寶岩長老嗣

89 海運・本州南部産・本領江刺郡増沢村万松寺東運長老嗣。

98 徳岩・本州南部産・江刺菅生村菅生院逸鳳長老嗣。

多くの場合は、「長老徒・長老之徒」もしくは「和尚徒」と表記される。この「嗣」との意味の違いが、存在するのであるか。もし、「嗣」を「嗣法」の意味とするならば、嗣法後に首座任に着くことが可能であったというのか。当時の制度を今一度問い直す必要がある。

(八) 受業師不明の例

受業師が不明の例が、以下の四人確認される。

28 大仙・足柄郡山王原村宗福寺

29 端山・駒郡麻尾村大福寺

87 良籠・相模曾我村瑞雲院

93 宗芳・尾張知多郡寺本村大祥院

また、受業師の代わりに「衆寮・首座」と記される例がある。

105 舜芳・出雲神門郡上乘寺 衆寮

106 祖賢・尾張愛知郡大森邑宝林寺 首座

この年だけなので、何らかの事情、記録者の誤記の可能性もある。

なお、寺院名・授業師共に不明な例もある。

199 賢芳・近江

本史料に記される内容に関しては、おそらく首座招聘が行われる事前のやり取りの中で、既に確認されていたであ

ろう。それは、他の寺院からやって来た身元不明の僧侶に、首座を勤めさせることなど想定できないからである。首座の出自・修行歴・受業師は、必須の確認事項と思われるが、記載漏れか、何らかの事情が生じたときか考えられない。

おわりに

以上、『夏冬首座記帳』記載の正法寺江戸後期百年間にわたる記録を読み解いてみた。その結果明らかになった特徴・問題点を論じて見たが、そこからは、正法寺と全国各地の寺院との交流関係、首座の人材確保の苦労や修行僧の動向など、様々なことが窺い知れた。

江戸時代、想像していた以上に広範囲から人材を集め、首座に任じていたことが判明した。と同時に、そうした動きが何に基づいて行われていたのか、その元となった交流関係、情報伝達の問題点など、新たな疑問も生じたのである。江戸期における曹洞宗の人材交流の実際を深く探求することにより、江戸期宗門の特徴をより明らかにすることができるのではなからうか。

註

(一) 江湖会に関する規程・三法幢地許可・結制の諸規定・首座の資格・常恒会片法幢会増設の規程等に関しては、栗山泰音『總持寺史』〔第六篇・寺格史、第六章・結制興行に係る関三利諸令達の梗概、第七章・三法幢地許可の基準と諸要件〕参照

また、江湖会に関する諸規程は、岡田宜法『洞門政要』〔第一篇制度・第七章国法と宗掟・第二節宗掟〕(三)(七)(一一)

(一四)(一九)(二三)(二四)参照

『夏冬首座記帳』

凡例

- 一、岩手正法寺所蔵『夏冬首座記帳』の翻刻である。
- 一、本史料は、三十五丁で欠丁はない。
- 一、()で示したのが丁数である。(3a)は冒頭からの通し番号、a bは表裏を示す。
- 一、確認の便を考慮して、首座にそれぞれ通し番号を付した。
- 一、最初の二丁が、常居会地認可の経緯、残り全てが首座の名簿である。
- 一、閉井郡⇨閉伊郡・邑⇨村、等の表記の違いはそのままとした。
- 一、しかし、防耆・染墨寺・宗畜寺等、明らかに写誤と思われる記載は、これを正した。
- 一、俗字・異体字・略字に関しては全部、あるいは部分的に字体をあらためたものもある。

夏冬首座記帳 表紙・直書き

宝曆七年丑ノ九月十九日入院其冬結制、翌寅ノ正月門中廻勸化、同二月普請ニ取付半途ニ致置キ、同七月五日仙臺_江登、入院_并御入部御目見、常會願ノ御暇願相出、四ヶ寺_江漆書願相出。同九月十日願相調、同十五日江戸_江出立。常會願大中寺御取上無之。翌年卯ノ五月帰寺。開山忌用意普請造作。辰年六月十四日開山四百年忌相過、同十三年未ノ

九月午續目能登^江出立、從本山三ヶ寺^江直書、五役寺ヨリ鑑司^江書狀共被相出。同十月江戸廻^江三ヶ寺^江經内意。同十二月歸寺、同十四年申ノ正月廿日出立仙臺^江登。御暇願四ヶ寺^江之達、三ヶ寺^江之添書相調。同月廿八日出立申(1a)江戸^江登。同三月ヨリ三ヶ寺^江申入、同四月三ヶ寺^江寺前出府届相濟。同六月常會願麻布菴穩寺御懸^三而御取上。同九月廿八日三ヶ寺御一同被成願御持參寺社御奉行酒井飛驒守殿^江被相出。同閏十二月六日常會御免許被仰出。同九日三ヶ寺御列座被仰渡^并壁書免贖永平寺^江之添書、本山^江ノ返書、四ヶ寺^江之返礼共被相渡。同十一日三ヶ寺^并監司方^江之礼相濟。同十九日寺社御奉行御列席之御礼被仰付則御老中寺社御奉行礼廻、三ヶ寺共相廻。寺社御奉行御列席御礼之節者^{三ヶ寺}ニテハ正法寺次^二被召出。此日之供奉者御屋敷^{ヨリ}(1b)廿八九人上之失墜^二テ被借下。此年年号改明和也。翌明和二酉ノ年正月五日江戸^{ヨリ}出立。同十九日永平寺^江着。同廿四日免贖被相出。同年二月一日總持寺^江着、從三ヶ寺之返書相出礼披露共^二相濟。同三月仙臺^江着、從三ヶ寺、四ヶ寺^江之返書相達。常會披露上^江モ常會披露御機嫌伺、前申ノ九月正法寺^江被為入御礼共^二貼具志摩殿ヲ以申上、同十九日歸寺。同廿七日常會初法幢入寺。(2a)

明和二乙酉年

- | | | | | |
|---|--------|------------|----------|----|
| 1 | 一豊前産 | 同州宇佐郡妻垣村 | 神徳寺活鯨長老徒 | 黙翁 |
| 2 | 一石見産 | 伯州会見郡小松村 | 雲光寺梅堂長老徒 | 泰陽 |
| | 明和三丙戌年 | | | |
| 3 | 一越中産 | 同州射水郡高岡郷関邑 | 瑞龍寺虎関和尚徒 | 丹翁 |
| 4 | 一美濃産 | 同州関之 | 龍泰寺透空和尚徒 | 龍溪 |
| | 明和四丁亥年 | | | 3a |
| 5 | 一美濃産 | 同州可兒郡大原村 | 普賢寺官龍長老徒 | 満岩 |

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
一尾張産	一出雲産	一美濃産	一丹後産	一美濃産	一美濃産	一上野産	一美濃産	一但馬産	一參河産	一防耆産	一信濃産	一本州産
武州下足立郡伊興村	同州飯石郡多久和村	同州武儀郡松森村	同州加佐郡下東村	同州賀茂郡鑄物師屋村	同州武儀郡小野村	同州甘樂郡高尾村	同州武儀郡安毛村	同州城崎郡小嶋村	武州江戸深川越中嶋	同州都濃郡久米村	同州更級郡牧田中村	同州伊達郡保原村
藥師寺寛量長老徒	寿福寺提宗長老徒	長徳院丹頂長老徒	東善寺直指長老徒	普門院蜜雲長老徒	徳巖寺大雲長老徒	長學寺宣寧長老徒	永昌院白毛長老徒	長源寺紹山長老徒	大原寺大休長老徒	慈福寺禪海長老徒	興禪寺宗海長老徒	仙林寺祖玄長老徒
寛孝	慧玉	大超	宜先	梅天	蟠龍	宣明	春豊	靈源	融山	的傳	梵州	無外
		4b				4a				3b		
		安永二癸巳年		明和九壬辰年		明和八辛卯年		明和七庚寅年		明和六己丑年		明和五戊子年
		八月廿日素英秋入院										

43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
甲斐産	老岐産	豊前産	伊勢産	豊前産	伊勢産	伊勢産	但馬産	出羽産	上総産	豊前産	加賀産	相州産
	天明六丙午年		天明五乙巳年		天明四甲辰年		天明三癸卯年		天明二壬寅年		安永十辛丑年	
本領城下栽松院連芳長老嗣		同州企救郡小倉城下	同州一志郡大阿坂村	同州企救郡小倉城下	同州一志郡大阿坂村	同州巨摩郡神取村	同州出石城下	同州飽海郡酒田	同州周維郡鎌滝	同州企救郡小倉城下	金沢府浅野川	同州大住郡落幡村
		宗玄寺仏海長老徒	淨眼寺良堂長老徒	宗玄寺仏海長老徒	淨眼寺恵燈長老徒	大林寺月潭長老徒	吉祥寺覺間長老徒	持地院大僊長老徒	天南寺発涯長老徒	宗玄寺仏海長老徒	廣誓寺鐵岩長老徒	極楽寺泰門長老徒
祖巖	大真	没量	7b	貫道	高天	金毛	圓宗	法運	耕道	海印	真龍	泰瑞
							7a				6b	

44	老岐産	同州柵江郡諸吉村	天徳寺祖石長老徒	大提	8a
	天明七丁未年				
45	老岐産	同州石田郡長頭村	古溪寺禪龍長老徒	禪達	
46	豊前産	同州企救郡小倉城下	宗玄寺仏海	海潮	
	天明八戊申年				
47	駿河産	同州駿東郡獅子濱村	楞嚴院周寛長老徒	實宗	
48	尾張産	同州春日井郡田幡村	西来寺藏山長老徒	梵秀	8b
	寛政元己酉年				
49	駿河産	同州駿東郡獅子濱村	楞嚴院梅堂長老徒	密元	
50	豊前産	同州中津郡大村	瑞龍寺未兆長老徒	未參	
	寛政二庚戌年	七月廿一日俊巖入院			
51	伊豆産	同州田方郡日向村	日輪寺寛亮長老徒	寛説	
52	出羽産	同州村山郡谷沢村	長福寺月峰長老徒	栄峯	9a
	寛政三辛亥年				
53	本州南部産	本領東山鳥海村	西光寺楚天長老嗣	東秀	
54	肥前産	同州神埼郡箱川村	妙雲寺大綱長老徒	綱宗	
	寛政四壬子年				
55	出羽産	同州由利郡本庄村	藏堅寺法圓長老徒	知音	
56	武蔵産	同州高麗郡野田村	長徳寺祝鳳長老徒	大鳳	9b

68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57
	相州産	越後産	越後産	一撰州産	一和州産	一武州産	一武州産	一羽州産	一武州産	一本州産	一肥前産
	同州足柄下郡宮野上村	同州蒲原郡燕町	同州蒲原郡木津	同州生玉郡天王寺上寺町	同州吉野郡葛川中村	同州崎玉郡處久保邑	高麗郡新堀村	庄内田川郡久田村	同州入間郡入間川村	同州鹿角郡大田村	同州杵嶋郡大野村
	保善院雄峰和尚徒	萬能寺越秀長老徒	圓通寺祖線長老之徒	鳳林寺番仙和尚徒	雲籠寺耕道長老之徒	慈眼院雄仙長老之徒	正覺寺	真秀寺大喝長老之徒	慈眼寺宣黙長老之徒	正觀寺覺翁長老徒	瑞應寺洞國長老徒
	洞林	睦峰	鐵牛	亮全	大心	宗興	瑞榮	大勇	柏芝	天麟	泰洲
	11b			11a				10b			

寛政十一己未年 二月廿四日炎焼

69	紀州産	那草郡若山城岡谷	珊瑚寺祥山和尚徒	逸山	
70	長州産	豊浦郡長府城小串邑	耕雲寺東海長老徒	實應	
71	防州之産	同佐波徳地野谷村	吉祥寺靈峰長老徒	大應	
72	安房産	同州平郡瀧田邑	龍善寺獨光長老徒	大宗	12a
73	周防産	同州濃郡徳山	興元寺辨之長老徒	養道	
74	濃州産	同州恵那郡東野邑	宗久寺探玄長老徒	悟山	
75	備中産	同州阿賀郡新見城	雲居寺玉輪長老徒	慧淳	12b
76	奥州産	同州南部稗貫郡土沢	常光寺十州長老之徒	壺春	
77	越中産	本領伊沢郡中畑村	大儀寺正道長老嗣	禪鏡	
78	越中産	同州礪波郡中田邑	萬年寺盤広長老之徒	鞭牛	
79	尾州産	同州知多郡大野邑	齊年寺一參長老之徒	逸鱗	
80	本州産	南部領閉伊郡綾織邑	光明寺覺林長老之徒	独峰	13a
81	本州南部産	本領東山濱横沢村	松山寺毫天長老嗣	仙山	
	文化二乙丑年				

94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82
若狭産	尾張産	文化八辛未年	本州産	越前産	本州南部産	尾張産	相模産	尾張産	本州南部産	石見産	尾張産	尾張産
同州三方郡織田村	同州知多郡寺本村	客殿再造立	南部閉井郡津輕石村	遠州豊田郡牛飼村	本領江刺郡増沢村	同州丹羽郡下野村	同州 曾我村	同州知多郡大野	本領東山折壁村	同州那賀郡神主村	同州知多郡大野村	同州春日井郡如意村
芳春寺胤明長老徒	大祥院		瑞雲寺白峯長老徒	大福寺秀仙長老徒	万松寺東運長老嗣	安穩寺現城長老徒	瑞雲院	齊年寺歆兮長老徒	龍雲寺寶岩長老嗣	大平寺大雄長老徒	齊年寺歆兮長老徒	岳桂院仙牛長老徒
大教	宗芳		文道	全海	海運	益全	良龍	篤宗	素法	栄瑞	雷喚	實岩
			15a			14b				14a		

117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107
尾州産	尾張産	尾張産	尾州産	尾州産	尾州産	尾州産	尾州産	野州産	尾州産	尾州産
文政六未冬	文政六未夏	文政六未夏	文政四巳年夏	文政四巳年夏	文政三辰年夏	文政二卯年冬	文政二卯年冬	文政二卯年夏	文政二卯年夏	文政二卯年夏
同州知多郡大野邑	同州知多郡須佐村	同州知多郡須佐村	同州知多郡常滑邑	同州知多郡常滑邑	盛岡三戸郡澤田邑	同州知多郡大野村	同州知多郡大野村	川内郡蛭沼邑	濃州池田郡脛永村	同州知多郡大野村
齊年寺默定長老徒	正衆寺宗孝長老徒	正衆寺宗孝長老徒	總心寺青州長老徒	總心寺青州長老徒	東光寺惠參長老徒	齊年寺默定長老徒	齊年寺默定長老徒	山王寺萬全長老徒	法幢寺天桂長老徒	齊年寺默定長老徒
寂宥	逸苗	孝隆	18a	大道	越宗	瑞峰	瑞峰	悟山	大雄	寬陵
						17b			17a	

151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
尾州産	三州産	勢州産	南部産	尾州産	本州南部産	本州南部産	本州南部産	勢州産	越中産	尾州産
天保十一子夏	天保十己亥冬	天保十己亥夏	天保九戌冬	天保九戌夏歲	天保八酉年夏	天保七丙申冬	天保七丙申夏	天保七丙申夏	天保七丙申夏	天保七丙申夏
同州春日井郡久地野村	越後蒲原郡久保田村	同州多気郡東黒部邑	同州閉伊郡豊間根邑	同州知多郡常滑邑	同州閉伊郡橘野村	同州閉伊郡大槌村	同州度會郡川崎	同州新川郡東岩瀨駅	同州新川郡東岩瀨駅	同州知多郡大野邑
萬溪寺心宗長老徒	太總寺良碩長老徒	阿彌陀寺梅洲長老徒	寶珠院雄賢長老徒	天澤院瑞峰長老徒	林宗寺智恭長老徒	江岸寺祖膺長老徒	不動院篤宗長老徒	蘭昌寺大信長老徒	蘭昌寺大信長老徒	齊年寺默定長老徒
榮森	隆堂	守言	義禪	太瑞	晦禪	祖恭	玄亮	一毛	一毛	全用
	24a			23b		23a			22b	

162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152
	南部産	南部産	南部産	尾張産	尾張産	尾州産	越後州産	本州南部産	尾州産	羽州産
	閉伊郡遠野横田邑	和賀郡皿木邑	春日井郡大野木邑	同州知多郡河和邑	同州知多郡河和邑	愛知郡名古屋城	蒲原郡大湊邑	和賀郡大田村	同州知多郡日間賀嶋	同州最上郡福田村
	柳玄寺靈真長老徒	永昌寺祖宗長老徒	福田寺石門長老徒	正藏寺崑山長老徒	全忠寺吞州長老徒	東海寺大道長老徒	本興寺道契長老徒	昌觀寺探中長老徒	吞海院大壽長老徒	福田院天量長老徒
	宗明	圓珠	全牛	東玄	實全	瑞光	道一	良宗	仙丈	智道
	26a			25b		25a			24b	

天保十一子冬

天保十二丑ノ夏

天保十二丑年冬

天保十三寅年夏

天保十四癸卯夏

天保十五甲辰年

此年弘化改元

弘化二乙巳年夏

弘化三丙午年

當夏五月閏月有之五月廿日録利披露致先五月朔日入寺ナリ向後為心得之左之通印ス

同年四月二十八日蒙住職同閏五月六日四十七世良天人院也

南部産 閉伊郡大槌邑 江岸寺智泰長老徒 泰玉

本州伊達産 伊達郡手袋邑 長興寺良門長老徒 良藥

弘化四丁未年 26b

南部産 閉伊郡橋野木邑 林宗寺祖俊長老徒 泰龍

摂州産 豊島郡新稲邑 榮松庵良暎長老徒 金嶺

弘化五戊申年 三月十五日江戸表ヨリ御触出年号相替リ嘉永元ト

南部産 北郡大畑邑 大安寺賢中長老徒 東岳

南部産 閉伊郡宮古邑 常安寺圓之長老徒 一峰 27a

嘉永二己酉年 閉伊郡大槌村 江岸寺祖膺長老徒 祖龍

武州産 豊島郡江戸牛込邑 鳳林寺瑾英長老徒 泰實

嘉永三庚戌年 27b

南部産 閉伊郡綾織村 光明寺栄中長老徒 葛純

南部産 和賀郡立花村 正藏寺禪戒長老徒 玉峰

嘉永四辛亥年

南部産 八戸郡新井田村 對泉院寛秀長老徒 泰俊

173

172 171

170 169

168 167

166 165

164 163

186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174
本州盛岡産	本州盛岡産	本州盛岡産	本州盛岡産	南部産	南部産	本州盛岡産	本州盛岡産	本州盛岡産	羽州産	本州盛岡産	本州盛岡産	南部産
岩手郡盛岡城	岩手郡盛岡	岩手郡太田邑	和賀郡黒沢尻	安政三丙辰年	閉伊郡大槌邑	和賀郡小山田村	岩手郡盛岡城	此年改元安政卜ナル	由利郡黒川村	稗貫郡十二丁目村	南部閉伊郡津軽石村	稗貫郡宮森邑
正傳寺日洲長老徒	永祥院泰岳長老徒	大松院獨笑長老徒	染黒寺不仙徒		江岸寺祖膺長老徒	瀧澤寺祖眼長老徒	永祥院泰岳長老徒		天松寺欄牛徒	圓通寺寛海長老徒	瑞雲寺天龍長老徒	善勝寺秀範長老徒
恵晃	便戒	祖笑	法隨		貞林	孿龍	良州		禪明	玉祥	探龍	魯牛
	30a				29b		29a			28b		28a

208	207	206	205	204	203	202	201	200	199
									一 江州産
									元治元甲子年
									一 尾州産
									元治元子年八月廿八日良天再住
									同州知多郡篠島村 正法寺圓明長老徒
									元治二乙丑星
									四月廿七日入寺、此年五月有閏
									一本州南部産
									閉伊郡遠野横田村 常堅寺徹定長老徒
									一本州南部産
									北郡田名部町 圓通寺賢孝長老徒
									慶応二虎年夏
									一松前産
									福山城 龍雲院道賢長老徒
									一本州南部産
									閉伊郡遠野長野邑 西来院探竜長老徒
									慶応三卯年夏
									一本州南部産
									和賀郡大巻邑 高金寺賢道長老徒
									同年冬
									一同州南部産
									和賀郡皿木邑 永昌寺徳成長長老徒
									慶応四辰年夏
									四月廿七日入寺
									一本州南部産
									閉伊郡遠野枌内村 光岸寺徳明長老徒
									一本州松前
									福山城 龍雲院道賢長老徒
									明治二己巳年夏
									東開
									廓禪
									33b
									祖恩
									柏真
									活堂
									33a
									哲應
									孝學
									大雲
									32b
									天外
									賢芳
									32a

213	212	211	210	209
一陸中國産	一肥後産	一南都産	一本州南部産	一本州南部産
下胆沢郡下姉鉢村	鮑田郡熊本城	閉伊郡遠野綾織村	閉伊郡大槌村	閉伊郡大槌村
龍徳寺良道長老徒	流長院熊峰長老徒	光明寺梅宗徒	江岸寺祖俊長老徒	江岸寺祖俊長老徒
	陸前国牡鹿郡湊村梅溪寺			
	明治四辛未天四月八日四十八世足庵入院			
	明治四未年夏			
	四月廿七日入寺			
良順	寛峰	智海	燈観	泰榮
35a		34b		34a